

12/17 Tue.

SHINRYO Presents <第九>特別演奏会
東京芸術劇場コンサートホール 19時開演
SPECIAL CONCERT, presented by SHINRYO / Tokyo Metropolitan Theatre 19:00

12/18 Wed.

FUJITSU Presents <第九>特別演奏会
サントリーホール 19時開演
SPECIAL CONCERT, presented by FUJITSU Ltd. / Suntory Hall 19:00

指揮
Conductor
ソプラノ
Soprano
メゾ・ソプラノ
Mezzo-Soprano
テノール
Tenor
バリトン
Baritone
合唱
Chorus
合唱指揮
Chorusmaster
コンサートマスター
Concertmaster

アイヴァー・ボルトン -p.4
IVOR BOLTON
シルヴィア・シュヴァルツ -p.5
SYLVIA SCHWARTZ
池田香織 -p.5
KAORI IKEDA
小堀勇介 -p.6
YUSUKE KOBORI
トーマス・オリーマンス -p.6
THOMAS OLIEMANS
新国立劇場合唱団 -p.7
NEW NATIONAL THEATRE CHORUS
三澤洋史 -p.7
HIROFUMI MISAWA
小森谷巧
TAKUMI KOMORIYA

※当初の発表から出演者が一部変更されました。

【第1部】<オルガン独奏>
オルガン
Organ

J. S. バッハ
J. S. Bach

ブルーンズ
Bruhns

[休憩]
[Intermission]

【第2部】<第九>
ベートーヴェン
Beethoven

交響曲 第9番 二短調 作品125 <合唱付き> [約65分] -p.10
Symphony No. 9 in D minor, op. 125 "Choral"
I. Allegro ma non troppo, un poco maestoso
II. Molto vivace
III. Adagio molto e cantabile
IV. Presto - Allegro assai

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
特別協賛：新菱冷熱工業株式会社 (12/17)、富士通株式会社 (12/18)
事業提携：東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団) (12/17)

※12月17日公演では日本テレビ「読響シンフォニックライブ」の収録が行われます。

12/20 Fri.

第627回 名曲シリーズ
サントリーホール 19時開演
POPULAR SERIES No. 627 / Suntory Hall 19:00

12/21 Sat.

第223回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演
SATURDAY MATINÉE SERIES No. 223 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

12/22 Sun.

第223回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演
SUNDAY MATINÉE SERIES No. 223 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

12/24 Tue.

第24回 大阪定期演奏会
フェスティバルホール 19時開演
SUBSCRIPTION CONCERT IN OSAKA, No. 24 / Festival Hall 19:00

指揮
Conductor

アイヴァー・ボルトン -p.4
IVOR BOLTON

※他の出演アーティストは前ページをご参照ください。

ベートーヴェン
Beethoven

交響曲 第9番 二短調 作品125 <合唱付き> [約65分] -p.10
Symphony No. 9 in D minor, op. 125 "Choral"
※詳細は前ページをご参照ください。

※本公演には休憩がございません。あらかじめご了承ください。
*No intermission

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
共催：東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団) (12/21、22)
協賛：NTTコミュニケーションズ株式会社 (12/20、21)、
非破壊検査株式会社 (12/24)、大和ハウス工業株式会社 (12/24)
助成：文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術創造活動活性化事業)
文化庁 独立行政法人日本芸術文化振興会 (12/20、21、22)
協力：コジマ・コンサートマネジメント (12/24)

12/17

12/24

〈第九〉公演

Maestro

指揮

アイヴァー・ボルトン

IVOR BOLTON, Conductor

〈第九〉で注目の初登場 鮮烈に響かせる“歓喜の歌”



©Ben Wright Photography

古典派の音楽で高く評価されている名匠が、年末恒例の〈第九〉で読響初登場。欧州を中心に、オペラとコンサートの双方で活躍している豊かな経験をもとに、独自の解釈で“歓喜の歌”を鮮やかに響かせる。

イギリス出身。これまでにオペラでは、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラ、バイエルン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、チューリヒ歌劇場、パリ・オペラ座など世界の一流歌劇場に招かれており、ザルツブルク音楽祭、フィレンツェ五月音楽祭、BBCプロムスなどにも出演。コンサートでは、ロイヤル・コンサートヘボウ管、ウィーン響、チューリヒ・トーンハレ管、BBC響、パリ管、フライブルク・バロック管など欧州の主要楽団に客演を重ねている。

1984年に古楽器アンサンブル、セント・ジェイムズ・バロックを創設。94年から96年までスコットランド室内管首席指揮者を務めた。現在は、バーゼル響首席指揮者、マドリッド王立劇場音楽監督、ドレスデン祝祭管首席指揮者、ザルツブルク・モーツァルテウム管桂冠指揮者の任にあるほか、2019/20シーズンはエッセン・フィルのアーティスト・イン・レジデンスを務めている。

CDやDVDも数多く、ヘンデルやヤナーチェクのオペラ、ブルックナーの交響曲全集などをリリースし、いずれも好評を博している。



©Gisela Schenker

ソプラノ

シルヴィア・
シュヴァルツ

SYLVIA SCHWARTZ, Soprano

澄んだ美しい歌声と高い音楽性を兼ね備えた歌姫。同世代の中で最も多才なソプラノの一人として注目を集めている。スペイン出身。これまでにラトル、アバド、アーノンクール、メータ、バレンボイム、ヤコプス、ルイーゼ、ミンコフスキ、ボルトンら巨匠の指揮で、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、マドリッド王立劇場、ポリショイ劇場で歌ったほか、ベルリン・フィルなどとも共演。ザルツブルク音楽祭、エディンバラ音楽祭、ヴェルビエ音楽祭などにも出演している。今年9月にはアン・デア・ウィーン劇場でアントニーニ指揮の〈ドン・ジョヴァンニ〉ドンナ・アンナを歌い好評を博した。読響初登場。

精緻な音楽性を持ち、躍進を続けるメゾ。東京都出身。慶應義塾大学法学部卒業、二期会オペラスタジオ修了。これまでに東京二期会〈トリスタンとイゾルデ〉イゾルデ、同〈エロディアド〉題名役、新国立劇場〈神々の黄昏〉第二のノルンなどを務めた。今年6月には東京二期会のヴァイグレ指揮〈サロメ〉でヘロディアスを歌い好評を博するなど、ドイツ・オペラを中心に活躍。2017年より連続上演されているびわ湖ホール〈ニーベルングの指環〉にはブリュンヒルデ役で出演中。コンサートでは、ベートーヴェン、モーツァルト、マーラーの作品などで国内の主要楽団と共演している。読響とはG. アルブレヒト指揮のヤナーチェク〈運命〉などで共演しており、今年12月にも井上道義指揮のマーラー交響曲第3番でソリストを務める。二期会会員。



©井村重人

メゾ・ソプラノ

池田香織

KAORI IKEDA, Mezzo-Soprano

12/17

12/24

〈第九〉公演

Artist

12/17

12/24

〈第九〉公演

Artist

12/17
|
12/24
〈第九〉公演

Artist



テノール

小堀勇介

YUSUKE KOBORI, Tenor

今年10月の日本音楽コンクールで優勝し、瑞々しい歌声で注目を集める新星。福島県出身。国立音楽大学卒業、同大学院修了。静岡国際オペラコンクール入賞、東京音楽コンクール第2位など受賞多数。文化庁新進芸術家海外研修生としてイタリア在学中に、ペーザロのアカデミア・ロッシニアナに参加、A.ゼツダのもとで研鑽を積んだ。2016年にロッシーニ・オペラ・フェスティバルで〈ランスへの旅〉リーベンスコフ伯爵に^{けんさん}拔擢され、成功を収めた。チロル祝祭歌劇場〈アルジェのイタリア女〉リンドーロで欧州デビューを飾り、メドック音楽祭、パチカン国際音楽祭などに出演。今年は藤原歌劇団〈愛の妙薬〉ネモリーノ、〈貞節の勝利〉フラミーニオなどを歌い、いずれも好評を博した。読響初登場。

12/17
|
12/24
〈第九〉公演

Artist

フィッシャー=ディースカウの伝統を受け継ぐバリトン。オランダ出身。アムステルダム音楽院で学ぶ。英国ロイヤル・オペラ、マドリッド王立劇場、ローマ歌劇場、ザルツブルク音楽祭などに出演するほか、アムステルダム・コンサートヘボウ、ウィグモア・ホールをはじめ世界各地でリサイタルを開催している。これまでにブリュッヘン、デ・ワールト、デュトワ、ピエロフラーヴェク、ポルトン、メツマッハー、ナガノらの指揮で、ロイヤル・コンサートヘボウ管、ドレスデン・フィル、BBC響などと共演。バロックから現代音楽作品まで幅広いレパートリーを誇る。シューベルト〈冬の旅〉ほか録音も多数。昨年7月にはエクサン=プロヴァンス音楽祭の〈魔笛〉パパゲーノで絶賛された。読響初登場。



©Marco Borggreve

バリトン

トーマス・オリーマンス

THOMAS OLIEMANS, Baritone

合唱

新国立劇場合唱団

NEW NATIONAL THEATRE CHORUS, Chorus

1997年にオープンした新国立劇場で、オペラ公演のための合唱団として活動を開始。厳正な審査によって選ばれるメンバーは100名を超え、新国立劇場が上演する多様なオペラ公演を通じて、年々レパートリーを増やしている。個々のメンバーは高水準の歌唱力と優れた演技力を有しており、合唱団としての優れたアンサンブル能力と豊かな声量を誇る。その確かな実力で、公演ごとに共演する出演者、指揮者、演出家をはじめ、国内外のメディアからも高い評価を得ている。読響とは2007年以降、年末の〈第九〉公演をはじめ数多く共演。特にラヴェル〈ダフニスとクロエ〉、ストラヴィンスキー〈詩篇交響曲〉、メシアン〈アッシジの聖フランチェスコ〉、ショスタコーヴィチ〈バビヤール〉では見事な歌唱を披露し、絶賛を博した。

国立音楽大学声楽科卒業。ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。1999年から2003年までの5年間、パイロイト音楽祭に祝祭合唱団指導スタッフとして従事した。11年には文化庁新進芸術家海外研修生として、ミラノ・スカラ座に3か月駐在。これまでにベルリン響、モンテカルロ・フィル、東響、東フィル、京響など国内外の楽団に客演。声楽を伴う多くの管弦楽作品に精通し、オペラやオラトリオの指揮なども手掛けている。びわ湖ホール専任指揮者などを経て、01年から新国立劇場合唱指揮者を務め、2019年4月に首席合唱指揮者に就任した。同合唱団を世界のトップレベルまで引き上げた業績が評価されて、16年度にJASRAC音楽文化賞を受賞した。作曲や編曲活動も行っている。



合唱指揮

三澤洋史

HIROFUMI MISAWA,
Chorusmaster

12/17
|
12/24
〈第九〉公演

Artist

12/17

12/18

〈第九〉公演
【第1部】

Artist



©安井進

オルガン

福本茉莉

MARI FUKUMOTO, Organ

欧州で注目を浴びる新鋭オルガニスト。東京都出身。東京芸術大学および同大学院、ハンブルク音楽演劇大学院で学び、2016年にドイツ国家演奏家資格を取得。武蔵野市国際オルガンコンクールで日本人として初優勝し、話題を呼んだ。ニュルンベルク、ブリクセン、ピストイアの各コンクールでも優勝。ドイツを拠点に活躍しており、アン斯巴ッハ・バッハ週間、リエパヤ国際オルガン音楽祭などに出演するほか、欧州各地の聖堂や教会でリサイタルを開催。バロックから現代作品まで桁外れのレパートリーを持ち、即興演奏も得意としている。NaxosからデビューCDをリリース。F.リスト・ワイマール音楽大学講師。シュレースヴィヒ・ホルシュタイン声楽家協会混声合唱団指揮者。読響初登場。

12/17

12/24

〈第九〉公演

Program Notes

ベートーヴェン

交響曲 第9番 二短調 作品125 〈合唱付き〉

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)は生涯に九つの交響曲を書いた。そのすべてが交響曲の歴史における輝かしい金字塔であり、とりわけ最後の交響曲第9番〈合唱付き〉はオーケストラに加えて、独唱、合唱までを要する異例の大作となった。以来、後世の多くの作曲家たちは9番目の交響曲を作曲する際に、ベートーヴェンを意識せざるをえなかったはずである。9という数字は交響曲の創作史におけるマジックナンバーといってもいい。

もっとも、ベートーヴェンの交響曲が9曲に終わったのは、たまたまというほかない。ほんのわずかでも作曲家の運命が違っていれば、交響曲第8番や交響曲第10番が最後の交響曲であってもおかしくはなかっただろう。ベートーヴェンの57年にわたる生涯のなかで、交響曲の創作期間は決して長くはない。交響曲第1番が完成されたのは1800年。交響曲第8番は1812年。この12年間に8曲の交響曲が集中的に書かれている。だが1812年の第8番から1824年の〈第九〉までにはさらに12年間の空白がある。〈第九〉は季節外れの交響曲と呼びたくなるほど作曲時期が異なっており、もはや書かれなかったかもしれない交響曲が、最後に奇跡的に絞り出されたかのような印象すら受ける。

交響曲第8番から5年後となる1817年、ベートーヴェンはロンドンのフェルディナント・リースから手紙を受け取る。手紙にはロンドン・フィルハーモニー協会のために新作交響曲を2曲書いて訪英してほしいと記されていた。ベートーヴェンはこれをいったんは受諾する。このプランが実現していれば、ベートーヴェンはロンドンで交響曲第9番と第10番を披露していたことになる。

しかし、この訪英が実現することはなかった。ベートーヴェンは後に自身の健康状態のため取りやめざるをえなかったと説明している。加えて、この時期、ベートーヴェンは甥カールの問題に心を砕かなければならなかった。1815年末にベートーヴェンの弟のカスパル・カールが世を去った際、その遺書には9歳の息子カールの共同後見人としてベートーヴェンと母親ヨハンナが指名されていた。甥カールに対して父親としての責任を負うことを望んだベートーヴェンは、ヨハンナはカールの養育者には不適當であると訴え、4年半にわたる法廷闘争に消耗させられるこ

ととなった。1818年にはカールの素行不良による退学処分や、出奔して母親のもとに駆け込むといった事件が起き、独身者ベートーヴェンがよもやの「家庭問題」で翻弄されることになる。当時の日記に心情が綴られている。

「神よ、私が愛しいカールのためによかれと欲していたことが、他人を苦しめなければならぬこの心の痛みをおわかりでしょう。聖なる御身よ、耳を傾けたまえ。すべての生ける者たちのなかでもっとも不幸なこの私に」

1822年、ロンドン・フィルハーモニー協会からふたたびベートーヴェンに交響曲の作曲依頼が届く。今度こそ9番目の交響曲が書かれることになる。1824年に作品が完成されると、ウィーンの人々からベートーヴェンの新作交響曲をウィーンで初演してほしいという嘆願書が作曲家のもとに届けられた。ベートーヴェンはこれに同意し、ケルトナートーア劇場での初演が決まった。初演では、客席から熱狂的な喝采が寄せられた。

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロppo、ウン・ポコ・マエストーソ。神秘的なトレモロから主題の断片が垣間見え、やがて頂点で全貌をあらわす。あたかも混沌から秩序が生まれるかのような劇的な幕開け。

第2楽章 モルト・ヴィヴァーチェ。激しく煽り立てるようなスケルツォの間にひなびたトリオがはさまれる。ティンパニの活躍が印象的。

第3楽章 アダージョ・モルト・エ・カンタービレ。天上の音楽を思わせる長大な緩徐楽章。平安と瞑想はやがて金管楽器の強奏による突然の呼びかけで遮られる。

第4楽章 プレスト〜アレグロ・アッサイ。轟音とともに開始され、先の三つの楽章が回想された後、「歓喜の歌」の主題があらわれる。バス独唱に誘われて、合唱がシラーの詩による「歓喜に寄す」を高らかに歌う。トルコ風行進曲、トロンボーンを伴った荘重な教会音楽風の合唱、二重フーガなど、次々と多様なスタイルを巡りながら、爆発的な終結部へと向かう。 〈飯尾洋一 音楽ライター〉

作曲：1818年頃~24年/初演：1824年5月7日、ウィーン、ケルトナートーア劇場/演奏時間：約65分
楽器編成/フルート2、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、打楽器(大太鼓、シンバル、トライアングル)、弦五部、独唱(ソプラノ、アルト、テノール、バス)、合唱

12/17

12/24

〈第九〉公演

Program Notes

12/17

12/24

〈第九〉公演

Program Notes

第4楽章
An die Freude
「喜びに」

訳：金子哲理

O Freunde, nicht diese Töne!
Sondern laßt uns angenehmere anstimmen, und freudenvollere!

おお 友よ この調べではない!
さらに心地よく 喜びにあふれる歌を とともに歌おう!

Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken, Himmlische, dein Heiligtum!

喜び! 神の^{ひかり}閃光 天国の乙女たち!
私たちは 炎に酔いしれて 天国の汝の聖地に 歩を進める!

Deine Zauber binden wieder, Was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder, Wo dein sanfter Flügel weilt.

時の流れに激しく引き裂かれた者も 神の不思議な力によって 再び結びつき
神の柔らかな翼のある場所で すべての人々は 同胞となる

Wem der große Wurf gelungen, Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen, Mische seinen Jubel ein!

ひとりの心の友を持つ 心優しい妻を得る
こうした幸福を得た者は 喜びに唱和せよ!

Ja, wer auch nur eine Seele Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle Weinend sich aus diesem Bund!

そうだ、この地上にひとりでも 魂の友を持つ者も とともに歌おう
そして、それが叶わぬ者は 涙とともにこの輪から離れよ

Freude trinken alle Wesen An den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen Folgen ihrer Rosenspur.

すべての被造物は 自然の乳房から喜びを飲み
善人も 悪人も みな 創造主の薔薇の小路をたどる

Küsse gab sie uns und Reben, Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben, Und der Cherub steht vor Gott.

神は ^{くちづけ}接吻と 葡萄酒と そして 死の試練をくぐった友を 与え給うた
虫にさえも神は快樂を与えた そして天使ケルビムは 神の前に立つ

Froh, wie seine Sonnen fliegen Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn, Freudig wie ein Held zum Siegen.

喜びよ 太陽が広い空を 神の定めに従って駆けるように
同胞よ! 自らの道を喜びをもって進め! 英雄が勝利に向かって 走るように!

Seid umschlungen Millionen! Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder! überm Sternenzelt Muß ein lieber Vater wohnen.

^{いだ}抱き合おう! 幾百万の人々よ! この接吻を全世界に!
同胞よ! 星々の彼方に 父なる神は住み給う!

Ihr stürzt nieder, Millionen? Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such' ihn überm Sternenzelt! Über Sternen muß er wohnen.

幾百万よ ひれ伏したか? 人々よ 創造主を感じるか?
星々の天幕に 神を求めよ! 星々の彼方に 神は住み給う!

J. S. バッハ

コラール〈目覚めよ、と呼ぶ声あり〉BWV645

晩年のヨハン・セバスティアン・バッハ(1685~1750)は、旧作の教会カンタータのコラール楽章から特に人気のあった曲を選んで、オルガン用に編曲した。BWV645から650までの6曲は、出版を手がけたバッハの弟子ヨハン・ゲオルク・シュープラーの名にちなんで「シュープラー・コラール集」と呼ばれる。とりわけ広く親しまれているのが、第1曲に置かれたコラール〈目覚めよ、と呼ぶ声あり〉。原曲ではイエス到来の喜びが歌われる。温和な楽想が安らぎをもたらす。

ブルース

前奏曲 ト長調

ニコラウス・ブルース(1665~97)はドイツの作曲家、オルガニスト、ヴァイオリニスト。リュベックでブクステフーデに師事し、コペンハーゲンでオルガニストおよびヴァイオリニストとして活動したのち、フーズム大聖堂オルガニストに就任した。早世したこともあり残された作品は少ないが、カンタータとオルガン曲が現存する。この前奏曲ト長調は、華麗で即興的なトッカータ風の部分と、おごりかなフーガ部分が交替する。幻想味と名技性が一体となった作品。

(飯尾洋一 音楽ライター)

【バッハ：コラール〈目覚めよ、と呼ぶ声あり〉】作曲：1748年頃／初演：不明／演奏時間：約5分

【ブルース：前奏曲】作曲：不明／初演：不明／演奏時間：約10分 楽器編成／オルガン独奏

12/17

12/24

〈第九〉公演

Program Notes

12/17

12/18

〈第九〉公演
【第1部】

Program Notes